

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1090200096		
法人名	有限会社 アズ		
事業所名	グループホーム あんず		
所在地	高崎市新町3148番地		
自己評価作成日	平成25年6月24日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成25年7月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームは文化ホール、幼稚園、市役所(支所)、保健センター、消防署等が立ち並ぶ市街地に立地している。木造平屋造りのホームは、玄関ポーチに季節の花が植えられたプランターが置かれ、ホールには季節の鉢が飾られている。入居者の8割が地域の方であり家族の訪問も多く、近隣を散歩してちいきの方と挨拶を交わしている。職員は入居者と一緒に食材を購入し、旬の野菜を使い、味・色彩・カロリー等を考えた食事を提供している。また、バイタルサインのチェック、食事の摂取状態、排泄等の心身の健康状態の管理をして、変化に対応している。入居者は、テレビ鑑賞や歌の好きな方は歌を唄ったり、会話を楽しんだり、月1回の外食や季節の花見を楽しみ表情豊かである。職員は、入居者の一人一人の思いを大切にケアに配慮し、熱意を持って理念の実践に取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の原点は、代表者が立ち上げた訪問介護で、ホームの理念に活かされている。共同生活であっても、地域に根付いた家庭的な生活、安心できる場所・環境を提供することを目指している。事業所は町の中心に位置し、近くに文化ホール・市役所(支所)・消防署がある。入居者のほとんどが地域の方であり、散歩や買い物で知り合いに会う機会が多く、挨拶を交わしている。社会資源を上手く利用しイベントに参加する等、地域との付き合いは活発である。事業所は、月1回「あんずだより」を発行し、家族に送付している。内容は、プライバシー保護を考慮し、その方の写真のみを掲載し他の利用者が掲載されないよう配慮し、担当職員の言葉が添えられている。食事は3食手作りで、入居者に食べたい物を聞いて一緒に買い物に行ったり、冷蔵庫にある食材で食事作りをしたり、職員も一緒に食卓を囲み、会話をしながら食事をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者一人一人の可能性を見出し、質の高いケアを心掛ける事を理念としており、職員会議等で話し合い実践に取り組んでいる。	事業所の原点である訪問介護サービスで経験と知識を活かし、理念を作成している。共同生活であっても家庭での生活に近い環境づくりに努め、個性やその人らしさを搾り出せる支援を目指している。職員会議で具体的な支援を話し合い、実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域の情報は広報・区長・学校PTAなどから得ており、自主的に地域の活動に参加している。また、入居者様は散歩、買い物などに出掛け、近隣の方と挨拶を交わしたり、楽しくお話をされている。	事業所は町の中心に位置し、社会資源を上手に利用している。自治会に加入し地元の情報を得、祭りの時には神輿が立ち寄ってくれたり、商工会主催の大道芸を見物したり、事業所の前にある町の文化ホールで行われる催しに参加したりしている。買い物は地元商店を利用し、知人と会う機会が多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所はオレンジリング(認知症サポーター)などに積極的に参加し、運営推進会議の中で認知症の勉強会、ワンポイントアドバイスなどを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では行事報告、行事予定などを報告し、利用者家族や地域の方々に幅広く意見やご指導を頂き、運営の取り組み、サービス向上に活かしている。	会議は2ヶ月毎に行われ、民生委員・区長・市職員・介護相談員・家族等で構成されている。活動内容報告後に、参加者から地域の情報や意見を頂いている。また、認知症の勉強会・ワンポイントアドバイスを行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業者は市の担当者と運営会議以外にも、入居者の問題や分からない事が生じると、すぐに担当者に相談したり情報交換を行い、サービス向上に取り組んでいる。	支所がすぐ近くなので、わからない事があると直接出向いて相談している。(介護事故や生活保護法等)公民館で行った認知症サポーター養成の勉強会では、事業所職員が寸劇を行い、市と協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員のリーダーが、身体拘束および抑制などの研修などに参加し、職員会議などで常に話し合い他職員や新人職員が正しく理解できるよう取り組んでいる。	職員のリーダーが、身体拘束をしないケアの研修会に参加している。身体拘束になってしまう具体的な行為について、全職員が正しく理解できるように職員会議などで共通認識を図っている。日中、玄関を施錠するのは身体拘束にあたると理解し鍵を閉めていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止セミナーなど、各職員に参加を即し、暴力や虐待は、人間としての尊厳を著しく損なう行為であり、人権に対する権利侵害の最たるものであることを話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人は、弁護士、司法書士、社会福祉士であり、私達職員は個人的な事には関われないが、入居者の良き代弁者、家族にこの制度が利用できるよう、職員間で話し合いをしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	なるべく時間をかけて一つ一つ丁寧に説明するようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員2名に対し利用者3名を担当とし、家族に担当職員の名を知らせ、より多くの意見・要望が聞けるよう勤めている。苦情相談窓口は、重要事項説明書に明記し、事務所前に提示し入居前に説明している。また、意見箱を設けている。	利用料の支払いは、直接来所の方法としているので、月に1回は家族が来てくれる。その時に本人の様子を話しながら、要望が出されれば、職員会議で話し合うようにしている。また、年に1回自由記述のアンケートを家族に行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ヒアリ・ハットなどを生かし、職員会議等で職員の意見を聞いて、改善などを行い、危険余地などに活かしている。その他イベントなども担当者を決めて意見や提案なども聞いている。	月に1回、ケアマネージャーも参加する職員会議を開催している。代表者がケアマネージャーを兼務しているため、職員意見や提案は代表者が直接聞いている。利用者本位の視点で検討が行われ、緊急性の高い物品等の購入はすぐの実行している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見を聞きながら、なるべく働きやすい環境を作れるようにしている。また、全員でのスキルアップ目指して講習や研修を受けたり勉強会をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は職員一人一人の能力を把握し、各職員の能力に応じた講習や研修ができるよう勤めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアマネージャーは新町ケアマネージャー研修会に参加し、情報交換をしている。ホームは、グループホーム協会に加入し、情報交換、意見交換などをし、他ホームとの交流訪問などを予定している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前は、ご本人様を訪問して顔を覚えて頂き、入居後はそれとなく一人の時にお話をさせて頂くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時、なるべく時間をかけてお話を伺う。また、その後も個別でお話を聞いたり、時には電話にてお話を伺う様にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	常に多くの可能性を考えて、サービスの提供できるように心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者は洗濯物干し、掃除、食材の買いものに出掛け、食事作りなどを行っている。職員は、入居者の悩み相談にのって貰う等支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族の訪問時、良くお話しをし意見や情報の交換に努めている。また、運営推進会議では認知症などの勉強会を開きイベントに年2回日帰り温泉を行い、家族と入居者の交流にも力を入れている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者が今を生きるを大切に考え、馴染みの人や、場所との関係が途切れない様スーパーに買い物に行ったり、地元のボランティアとの交流に努めている。	食材の買出しに近くのスーパーに行き、知人と出会ったり、子どもや親類・知人の訪問時は穏やかに話ができるように利用者の部屋で過ごしていただいたりしている。法事に参加するために事業所の車で送迎を支援し、馴染みの人との関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の個別ケアを大切にしているが、入居者が孤立しない様、風船バレー、カラオケ、カルタ遊び、手作りおやつなどを行い入居者同士が関わりあえる様支援に努めている。また、月1回の夕食を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	催事のお誘いや、手紙(はがき)をお出ししている。特に必要な時は、電話でのやり取りをさせて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人一人の思いや希望を聞いて、ビールを飲みたい人には飲んで頂き、食べたいものなどは一緒に買い物や外食などに取り入れている。また、家族に対しての意向や希望には、良き代弁者になっている。	職員は、意思表示が出来る人には言葉をかけ、思いや意向を聞いている。意思表示が困難な人には、表情・しぐさ等から思いの把握に努めている。わからないことがあれば、家族に聞いている。髪の毛を染めたいと言う人の意向を家族に伝え、その結果、事業所の浴室を借りて家族が毎月毛染めを行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメント、入居後は、家族に暮らし方などお話を聞いて、職員会議などで話し合い、馴染める生活環境を築ける様努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者が、一人一人自分のペースで、1日を過ごして頂ける様、常に職員間で話し合いを持っている。協力医が2週間に1度往診して頂き連携をとっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング担当者を決めて、家族や関係者との話し合い、情報を得ている。また、連絡帳などを利用し職員間の情報の共有にも生かし、アイデアを出している。	入居者の日々の生活の様子は、個人記録に職員が記入している。計画作成担当者は本人・家族の要望と意見を踏まえ、職員からは口頭・申し送りノート・業務日誌から情報を得て、職員会議でカンファレンスを行い、介護計画を作成している。モニタリングを行っているが、介護計画とはかみ合っていない。	介護計画が基本であることを職員全員が理解し、介護計画に基づいた日々の介護実践の記録や振り返り、モニタリングの実施を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきなど連絡帳に記入し、報告、連絡、相談を徹底して行い、そのつど職員間で話し合いを持って、工夫・見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	かかりつけ医の受診時、家族に代わって職員が受診に同行し、状態を家族に報告している。2ヶ月ごとに近隣の美容室の訪問があり、希望する方がカットできる。時には散歩をしながら、同事業所(なずな)へお茶を飲みに出かける。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホーム前に新町文化ホールや新町図書館などがあり、散歩などを楽しまれている。新町ボランティア団体から情報を得て利用している。また、新町支所も近くにあり、情報、相談なども行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、本人や家族の希望により、入居以前からの係りつけ医になっている。また協力医が月2回往診に見え、日々の健康相談をしている。近隣に薬局があり、FAXをし薬を届けて頂ける様にしている。歯科医もあり必要な時には、往診もしてもらえるようにしている。	ほとんどの方は協力医をかかりつけ医とし、月2回往診を受けている。入居前のかかりつけ医を受診している方もいる。専門医の通院は家族が連れていくが、職員も受診に同行し、日頃の状態を医師に報告している。歯科医の往診も支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師がいないので、月2回往診して頂く協力医の往診や緊急時は電話等で対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族対応の通院にも出来るだけ職員が同行し、1日の生活や状況などお話し、病院、ソーシャルワーカーとも、相談、意見交換などを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の希望により、終末期のケアが可能な状態までホームで対応しており、入居時にホームで出来る最大のケアについて説明している。急変時は、家族や医師に連絡し、救急車で入院対応としている。重度化や終末期について、家族や、かかりつけ医、ホームで話し合い、方針を共有している。	入居時に、事業所が対応出来る最大のケアについて説明している。事業所は、ターミナルケアは家族との信頼関係の延長線上にあると理解しているので、信頼関係を構築しながら、必要時話し合い方針を決めている。急変時は家族や医師に連絡し、救急車で入院対応としている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを作成し、急変や事故発生時に備えている。また、職員、病院の連絡表を作成し24時間対応していけるよう努めている。職員会議でも常に話し合いを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急災害マニュアルを作成し、消防署との連携を取り、総合消火訓練、夜間消火訓練を年2回実施している。また、市・自治会と連携し、水害避難訓練も行っている。	年に2回春秋に消防訓練があり、春は夜間想定で行ない、昼間想定は同一敷地内のデイサービス事業所と合同で実施している。通報・消火・避難訓練を行い、災害時、利用者が避難できる方法を職員が身につけている。烏川が近くにあることから、町全体で行う水害避難訓練も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄誘導の言葉掛けや対応に配慮し、職員同士で誇りやプライバシーを損ねる不適切な言葉掛けを注意しあっている。個人の記録簿は、他の目に触れない様、事務所に保管し、職員は採用時に個人情報保護法の秘密保持の厳守を制約している。	呼称は、苗字か名前としている。トイレ誘導時は、他の入居者には聞こえないように耳元で声かけをしたり、「ちょっと行きますか」とさりげない言葉かけをしたりしている。誇りやプライバシーを損ねてしまうような不適切な言葉かけをしないように、注意しあっている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴前の着替えなど入居者に決めて頂いたり、日常生活の決定にも入居者にして頂くよう職員間で徹底している。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な生活の流れはあるが、本人の体調や気持ちを大切にしている。居室で過ごしたい入居者には、見守りや無理強いはずせらずにそっと声掛けし、その方のペースで過ごして頂けるよう支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に入居者が整容して頂けるよう誘導し、霧吹きなども自分で決められるよう声掛けしている。また、化粧などしたい入居者には職員が対応し楽しまれている。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者に食べたいものなどを聞いて一緒に近くのスーパーなどで買い物をして台所で料理など手伝って頂いている。おしぼりの用意や後片づけもして頂いている。	食事は、3食手作りである。献立は事前に作成せず、一般家庭と同じように入居者に食べたい物を聞いて、買い物に行ったり、冷蔵庫にある物で作ったりしている。検食簿を作成し、献立内容・主食の炊き方・味付け等の所見を記載し、次の献立作りに活かしている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	朝モーニングコーヒーや紅茶などを飲んで頂き、夜寝る前はゆず茶などを飲んで頂いている。また、お茶や麦茶などは1日中飲めるようになっている。栄養管理、栄養バランスは常にしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、入居者一人一人に職員が口腔ケアの対応をしている。また 夕食後寝る前は入れ歯を預かり洗浄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者がトイレにて排泄して頂ける様に、声掛け、誘導、見守りをしている。また、トイレが利用できない入居者には、居室にてPTイレを利用して頂きオムツの使用はなるべく減らすよう努めている。	水分摂取や排泄チェック表を参考に、排泄の自立に向けて声かけ・トイレ誘導・見守りをし、なるべくトイレにて排泄できるようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者の排泄は、管理表を作成している。なるべく自然に便をして頂ける様、寒天などを使用したり、かかりつけ医、協力医などと相談して処方される整腸剤などで個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望により(火曜日は除く)毎日入浴ができ、一人平均週3日の入浴回数になっている。一人ずつゆっくりと入浴して頂き、拒否する入居者には言葉掛けを工夫し、タイミングをずらして対応している。入浴しない方には清拭をしている。また 季節の菖蒲湯やゆず湯で楽しめるよう支援している。	入浴は平均週3回であるが、毎日入浴出来るようになってきている。一人ずつゆっくり入浴して頂くように、一人の利用者に一人の職員が関っており、入浴拒否される利用者はいない。季節の菖蒲湯・ゆず湯で楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝る前に、体が温まる飲み物を飲んで頂いたり、足浴など取り入れている。冬は寒くて眠れない方には、湯たんぽを利用して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者のかかりつけ医、ホームの協力医に相談し、職員間にてよく話し合いを持ち対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干し、掃除、雑巾縫い、花の水やり、テーブル拭き、お茶出し等をして頂いている。また テレビ鑑賞、カラオケ、風船バレーや塗り絵等職員と一緒に、月1回の夕食や季節の花見に出掛け気晴らしの支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的にホーム周りの散歩、近所への散歩などドライブにて公園などにも出掛けている。また、家族にも入居者と一緒に出掛けるよう努めて頂き支援している。	日常的には近隣の散歩、季節の花見、月1回の夕食に出かけている。年に1回は家族にも参加していただいて、温泉施設から送迎車があり日帰り温泉に出掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者本人がお金を持ちたいと訴えがある場合、本人、家族、職員などでよく話し合い金額を決めている。また、外食時上限を決め、家族よりお小遣いを貰いイオンなどで本人の欲しい物を入居者がお金を払い買い物ができる支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	はがき、切手などあらかじめ用意しており、手紙のやり取り、電話などできるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には長椅子が置かれ、腰を掛けて履物が履ける様になっている。要所要所に手摺があり、ホールの床は木製で床暖房が完備されている。ホールにはテレビが置かれ、それを囲むようにソファが2つ並び入居者が会話が楽しめるよう工夫されている。ホールに続く厨房からは、ご飯の炊ける匂いを感じられ、七夕飾りや歌が流れ季節感を取り入れている。	広い共有空間があり、木の温もりが感じられる。天井は高く明るい。ホールは床暖房になっていて、テレビを囲んで2つのソファが置かれ、快適に過ごせる居心地のよい空間となっている。壁には行事等の写真が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食席などは自由に座れる様にしている。また、基本は個別ケアなので一人になりたい時は居室で過ごれているが食事のときは社会性の観点から食席で一緒に食事をするよう声掛けをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には筆筒、テレビ、椅子等が持ち込まれ、家族の写真が飾られたり、洋服が居室の隅にかけられたりしている。生活スタイルに合わせた配慮をし本人が居心地良く過ごせるような工夫をしている。	居室は自宅から持ってきたテレビ・籐の椅子・家具等が置かれ、家族の写真や事業所で作った作品・カレンダーも飾られている。居室は洋間であるが、1畳分の畳スペースがあり、有効利用として畳の下が収納庫となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員会議にて、出来る事、わかる事などを話し合い、日常生活に関わるお手伝いをして頂いている。また、入居者のペースにて誘導、声掛けの工夫やアイデアを出し合っている。		